

令和3年度 教育シンポジウム

パネリスト
日本マイクロソフト
業務執行役員
文教営業統括本部長
中井 陽子 氏

パネリスト
内閣府 科学技術・
イノベーション
推進事務局 審議官
合田 哲雄 氏



コーディネーター
教文研所長
千葉敬愛短期大学学長
明石 要一 氏

教育の未来を展望する

～未来を創る当事者（チェンジ・メイカー）の育成～

令和3年11月21日（日）9:50～12:00

お申し込みはこちら（申込締切 11月16日）

<https://form.dr-seminar.jp/seminars/bgixrh/1121webinar>



配信方法：Web配信（全国どこでも参加可能）
参加方法：事前申込制、**会員以外の方も申込可能です**
連絡先：kyoubun@ntfj.net 03-3262-1859



主催 日本教育文化研究所



登壇者提言



パネリスト 合田 哲雄 氏 プロフィール

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 審議官。

1970年東京生、倉敷育ち。1992年文部省入省。福岡県教育庁高校教育課長、国立大学法人化や08年学習指導要領改訂の担当、NSF(全米科学財団)フェロー、高等教育局企画官、初中局教育課程課長、同財務課長等を経て2021年7月から現職。上越教育大学等の非常勤講師。

単著に『学習指導要領の読み方・活かし方』(2019)、共著に『学校の未来はここから始まる』(2021)(ともに教育開発研究所)。目黒区立の小中学校のPTA会長を6年間経験。

デジタル・トランスフォーメーション(DX)の時代にあつて、我が国の縦割り・自前主義の発想は成長の致命的な桎梏。だからこそ、(1)課題から考える、(2)抽象化して考える、(3)複数の分野や専門を経験することによって得られる複数の解決のパターンを駆使するといったDXの思考法そのものが社会的価値を生み出している(西山圭太氏『DXの思考法』2021、文藝春秋)。

多様な考えや発想をもった他者との対話を重ねることは面倒で、人工知能(AI)や特定のリーダーが決めたことに従った方が楽かも知れない。さらに、フェイクニュースが広がるデジタル社会においては、情報やテキストを鵜呑みにするのではなく、事実にあたりたり論理的に検証したりして真偽を確かめることも求められているが、これも面倒なことに違いない。しかし、自分達で社会の方向性を決めることを放棄し、すべてAIや特定のリーダーに丸投げする社会はディストピアそのもの。

DXの時代にあつては、一人一人が自らゴールを設定し、自分の学びを調整するとともに、他者との対話し協働する力をはぐくむ学校教育が社会や産業をリードすることが求められている。そのためには、形式的公正のみにこだわって子どもたちに一律にストレスをかける共通テストや一括採用の発想から脱却し、一人一人の認知の特性を踏まえてその力をさらに伸ばす刺激を与え、その伸びを手間暇かけて可視化することや他者との対話を通して「納得解」を形成することが学校教育の目的だとの認識の共有とともに、子供たちの学びを支えるリソース(時間、人材、財源)の充実と再配置が必要である。



パネリスト 中井 陽子 氏 プロフィール

日本マイクロソフト株式会社 業務執行役員 文教営業統括本部長。

早稲田大学卒。豪州Bond University MBA修士課程修了。1997年日本マイクロソフト入社後、Windows製品部門にて法人向けマーケティングマネージャを務めた後、米シアトル州マイクロソフト本社インサイドセールス戦略部門にて戦略立案を担当。帰国後再び日本マイクロソフト株式会社マーケティング本部にてマーケティング分析戦略部門統括。2016年コンシューマデバイス事業本部にてWindows & Office カテゴリマネジメント本部長、2018年よりパブリックセクター事業本部にて教育事業部門の統括本部長に着任。前Windows Digital Lifestyle Consortium 事務局長・ICT Connect 21理事、総務省 教育現場におけるクラウド活用の推進に関する有識者会合委員、AI時代の教育学会理事、山口県CIO補佐官、一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)理事など歴任。

未来を創る当事者(チェンジ・メイカー)を育成するには、今の日本の状況の把握や20年~30年後にどのようなになっているかの予測をしながら、必要とされるスキルを育てていく必要がある。本主張では、さまざまなデータを元に状況の把握を行い、Future Ready Skillsと呼ぶ未来を創るために必要なスキルを紹介する。

Future Ready Skillsには、以下の6つのCで始まるスキルが含まれている。

議論しあう力(Communication)

協働しあう力(Collaboration)、

好奇心(Curiosity)

計算論的思考(Computational Thinking)、

創造力(Creativity)

疑問を逃さない思考性(Critical Thinking)



コーディネーター 明石 要一 氏 プロフィール

千葉大学名誉教授・千葉敬愛短期大学学長。日本教育文化研究所所長。

昭和23年1月17日生まれ(山口百恵さんと同じ誕生日)、大分県姫島村出身。

東京教育大学大学院博士課程満期単位取得退学。専攻は教育社会学で青少年教育。

文部科学省中央教育審議会委員、同生涯学習分科会会長、千葉県地域訓練協議会委員、千葉県地域ジョブカード運営本部委員等を務める。千葉大時代に「ナガシマ学」を打ち立てる。

最新著「教えられること 教えられないこと」(2021、さくら社)

社会構造が飛躍的に変化する今、いかなる人材が求められているのか。またその人材を育成する場である教育はどうあるべきなのか。そしてそこから導かれる学校に求められることとは何か。

経済産業省「未来の教室」とEdTech研究会が示した第2次提言「『未来の教室』ビジョン」では、これから求められる力を「創造的な課題発見・解決力」とし、「取り組むべき課題を自ら設定し、未来を見据えて有効な解決力を創り出す力」だと定義している。さらに「AIやデータの力を借りて社会や人間を丁寧に観察・分析し、世界中の多様な知を組み合わせ、有効な解決策を生み出す創造的・論理的な思考力と、それを実現する行動力ではないだろうか」と投げかけている。

本シンポジウムでは、パネリストの主張を手がかりに、これから国が進むべき現在の教育の方向性を読み解くとともに、子供たち一人一人が、未来を創る当事者(チェンジ・メイカー)となるために必要なことを明らかにし、教育の未来を展望していきたい。